Rotary
第2820地区

CREATE LASTING IMPACT

月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2026 8月号

国際ロータリー第2820地区　2026-2027年度　ガバナー　笠倉　勉

2026-2027年度　RI会長メッセージ

CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

目　次

８月は、会員増強・新クラブ結成推進月間です。

ＲＩテーマ・目次 …… 2

ガバナーメッセージ …… 3

特別月間 …… 4

委員会の方針と展望 …… 5

新分区構成について …… 13

国際大会茨城ナイト報告 …… 14

地区大会チラシ …… 15

スケジュール・新会員紹介・編集後記 …… 16

題字･表紙写真

作者紹介　　飯野農夫也（いいの のぶや）（1913－2006）

1913年　下館市上平塚に生まれる
1931年　真岡中学校卒業後、上京。
　　プロレタリア美術研究所で学ぶ。
　　その後、版画を始める。
1977年　下妻市で個展。NHK美術館
　　「私とミレー」出演
1988年　茨城県近代美術館
　　「現代茨城の美術展」出品
1995年　下館市主催
　　「画業65周年　飯野農夫也画業展」
1997年　銀座秀朋画廊にて個展
2001年　長野県北御牧村立梅野記念絵画館
　　「飯野農夫也と郷友展

表紙　真夏の田ころがし（1968）
題字　林崇威（りんすうい）

ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
ガバナー　**笠　倉　　勉**（しもだて紫水RC）

国際ロータリー第２８２０地区の活動をより力強く、持続可能なものにしていくためには、戦略計画に基づいた「運営の効率化」が欠かせません。ロータリーの目的は、単に組織を維持することではなく、地域社会や世界に対してより大きな奉仕の成果を生み出すことにあります。そのためには、限られた時間・人材・資源を最大限に活かす仕組みづくりが必要です。

近年、社会環境は大きく変化し、会員の価値観や生活スタイルも多様化しています。その中で従来通りの運営だけでは、持続性や発展性を保つことが難しくなっています。だからこそ、今こそ「何を続け、何を見直し、何を新たに始めるか」を明確にする行動計画が重要になります。

運営の効率化とは、単に無駄を省くことではありません。会議のあり方を見直し、情報共有を迅速にし、委員会活動を明確化することで、会員一人ひとりがより主体性に活動できる環境を整えることです。デジタルツールの活用もその一つであり、地区やクラブ間の連携をよりスムーズにし、意思決定のスピードを高めることにつながります。そのために、行動計画を地区運営やクラブ運営の中にしっかりと落とし込み、実践することが必要になります。

また、効率化によって生まれた時間やエネルギーを、奉仕活動や会員増強、公共イメージ向上、そして次世代を担うローターアクトとの協働といった本来の使命に振り向けることができます。これはロータリーの価値を高めるだけでなく、若い世代との連携は深め、会員満足度の向上にもつながります。

行動計画は「より大きなインパクトをもたらす」「参加者の基盤を広げる」「参加者の積極的なかかわりを促す」「適応力を高める」という４つの優先事項を掲げています。行動計画は特別なものではありません。日々の例会、奉仕活動、仲間との対話、その一つひとつの積み重ねこそが実践そのものです。大切なのは「自分を変える」「まずは一歩を踏み出す」です。

「エンジョイロータリー！！！ そしてスマートに…」この精神のもと、楽しみながらも効率的で実効性の高い運営を進めていくことが、これからのロータリーに求められる姿です。一人ひとりの小さな行動が、大きな変化を生み出します。今こそ戦略計画を実践に移し、共に新しいロータリーを築いてまいりましょう。

特別月間　会員増強･新クラブ結成推進月間に寄せて

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
クラブ奉仕担当カウンセラー　**大　髙　司　郎**（高萩RC）

8月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」です。今年度よりクラブ奉仕担当カウンセラーを拝命した立場から、各クラブの皆さまに、改めて会員増強への行動をお願い申し上げます。

国際ロータリーは、創立125周年を迎える2030年７月１日までに、世界のロータリークラブ会員を125万人に増やすという目標を掲げています。その実現には、各クラブが従来の運営方法に固執せず、新たな視点で取り組むことが求められています。

昨年度、当地区では４クラブがRIを脱会し、会員増強においても国内34地区の中で極めて厳しい状況にあります。この現実を真摯に受け止め、地区もクラブも、変化を恐れず行動する時期に来ています。

この月信が皆さまのお手元に届く頃には、新クラブ会長のもと、各クラブの新年度運営が本格的に始動していることと思います。皆さまのクラブでは、会員増強のスタートダッシュに成功されましたでしょうか。少し出遅れたクラブはありませんでしょうか。

会員増強には、上期の早い段階からの取り組みが重要です。オープン例会の開催、衛星クラブの設立、クラブ独自の会員種類の導入など、各クラブの実情に合った方法を試みることが、会員維持と新たな仲間づくりにつながります。また、地域や職業、世代に応じた新しいクラブの形を考えることも大切です。

一方で、会員維持も欠かせません。新入会員を迎えても、それ以上に退会者が出てしまう「回転ドア」の状態を止めなければ、クラブの活力は高まりません。当地区の既存会員維持率は２年連続で89％台にとどまっており、楽観できる状況ではありません。今いる会員がロータリーに魅力と居場所を感じられるクラブづくりこそ、確かな会員増強の土台です。

また、分区においては、ガバナー補佐の役割が大きな鍵を握ります。各クラブの現状や課題に寄り添い、分区内で情報や成功事例を共有することで、新たな可能性が生まれます。

笠倉ガバナーは、「11月の地区大会までに純増1名を目指しましょう」という目標を掲げられました。地区内50クラブがそれぞれ１名の純増を達成することは容易ではありません。しかし、その実現は、各クラブが上期にどれだけ行動を起こすかにかかっています。

もし７月のスタートに少し出遅れたとしても、まだ十分に間に合います。8月の特別月間を、クラブの現状を見つめ直し、候補者のリストアップ、オープン例会への招待、退会防止の声かけなど、具体的な行動へ踏み出す機会にしてください。

未来のロータリーをつくるのは、今の私たちの一歩です。各クラブが分区内で連携しながら、会員増強と、衛星クラブを含む新クラブ結成推進に向けた行動を起こしてくださることを、心よりお願い申し上げます。

委員会の方針と展望

クラブ奉仕委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
クラブ奉仕総括委員長　**井　上　　誠**（下妻RC）

本年度、国際ロータリーは「持続可能なインパクトを生み出そう」というテーマを掲げました。また、笠倉ガバナーからは「エンジョイロータリー！！！ そしてスマートに…」というスローガンをいただいております。これらのメッセージを胸に、本年度も引き続き、クラブ奉仕総括委員長の大役を仰せつかり、皆様とともに活動できますことを大変光栄に存じます。

今年度、当委員会が目指すのは「北風と太陽」における「太陽」になることです。会員増強においてプレッシャーという「北風」を吹かせるのではなく、「今日の例会は楽しかった」「この居心地の良さをあの人にも教えたい」と、会員が自然と重いコートを脱ぎ、新たな仲間を連れてきたくなるような、温かく楽しいクラブ（太陽）づくりを全力で支援してまいります。

「会員維持と退会防止支援」として、「楽しい例会づくり」と「よいこと共有」を推進いたします。地区内の多彩な人材を登録する「卓話マイスター図鑑」を展開し、各クラブの例会に新たな彩りを提供し、「楽しい例会づくり」の応援をいたします。また、長年クラブを支えてこられたシニア会員の皆様の経験を地域の宝（レガシー）として讃える「レガシー・オナー褒賞制度」を実験的に行い、ロータリアンとしての誇りを地域の未来へ継承します。

「会員増強支援」としては、各クラブの状況に合わせた３つの手法である「楽しむ基本的な会員増強」や「オープン例会の支援」、「新クラブ設立」の伴走型支援を行います。時代に合ったスマートな実践の中にも、根底にあるのは「人への温かい想い」です。クラブが皆様にとって笑顔溢れる最高の「居場所」となるよう、本年度も全身全霊で寄り添ってまいります。私たち一人ひとりが温かい「太陽」となり、共に手を携えてロータリーの未来を照らしていきましょう。本年度も変わらぬご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

CREATE LASTING IMPACT

委員会の方針と展望

職業奉仕委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
職業奉仕総括委員長　**安　　隆　之**（水戸RC）

2026-27年度の職業奉仕委員会は、国際ロータリー会長オラインカ・ハキーム・ババロラ氏が掲げる「CREATE LASTING IMPACT（持続可能なインパクトを生み出そう）」を踏まえ、自らの内面と行動を見つめ直し、職場から持続的な変化を広げることを基本方針とします。

職業奉仕は、単なる理念ではなく、日々の経営や業務に生かすべき実践的な指針です。アーサー・シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という考え方は、顧客、従業員、取引先など関係者との公正な利益配分を通じて、事業の継続的な発展を目指す経営哲学として捉えることができます。企業が安定して発展してこそ、地域社会への持続的な貢献も可能になります。

この方針のもと、三つの重点目標を掲げます。

第一に、「四つのテスト」を日々の経営判断に生かし、事実、公平性、信用、相互利益の観点から倫理と成果の両立を図ります。

第二に、会員事業所の相互訪問を通じて、多様な働き方や持続可能な事業運営の工夫を学び合います。

第三に、各会員が専門知識や技能を生かし、プロボノ活動などを通じて社会への具体的な貢献を広げます。

私たち一人ひとりが自らの職場で高い倫理基準を実践することが、クラブを変え、地区を変え、地域社会に新たな価値を生み出します。一年間、共に「持続可能なインパクト」の実現に取り組んでまいりましょう。

委員会の方針と展望

社会奉仕委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
社会奉仕総括委員長　**黒　木　雅　宏**（水戸西RC）

本年度、第2820地区の社会奉仕総括委員長を拝命いたしました。ロータリーの本質である「超我の奉仕」を体現する上で、社会奉仕は地域社会と私たちを結ぶ最も重要な架け橋です。変化の激しい現代社会において、多様化する地域課題に迅速かつ柔軟に対応するため、本年度の基本方針と未来への展望を掲げます。

【基本方針：実践的な行動変革】

1．成功事例の共有とブラッシュアップ：過去の優れた奉仕事業を紹介し、各クラブが継続事業を時代に合わせていくことができるようご案内いたします。
2．地域ニーズの正確な把握：行政や他団体との連携を密にし、地域が真に必要とする持続可能な奉仕プログラムの構築を支援します。
3．ロータリアン自身の成長と意識醸成：奉仕活動を通じて会員が地域課題に対し、自らの職業奉仕により大きな相乗効果を生み出す環境を整えます。
4．ロータリー活動の資料を公共施設への配布・ＰＲを行います。

【未来への展望：持続可能で開かれた奉仕のカタチ】

私たちが目指す展望は、
「次世代へ繋ぐ、持続可能で地域に深く根ざしたロータリー」の確立です。
少子高齢化や環境問題など、地方が直面する課題は深刻です。これらを解決するためには、単独のクラブの活動だけでは限界があります。今後は、近隣クラブ間の合同事業や、青少年奉仕・国際奉仕といった他部門との「縦・横の連携」を強化し、よりインパクトの大きな事業へと発展させていく必要があります。さらに、ロータリーの活動を広く社会へ発信し、地域住民を巻き込んだ「開かれた奉仕活動」を展開し地域社会から「無くてはならない存在」として認知されることを目指していきます。
各クラブの皆様の知恵と情熱を集結させ、笑顔あふれる豊かな地域社会の実現に向けて、尽力してまいりますので一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

超我の奉仕　Service Above Self

委員会の方針と展望

国際奉仕委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
国際奉仕総括委員長 **村　上　義　孝**（つくば学園RC）

今年度、２年目の地区国際奉仕総括委員長を務めさせて頂くことになりました、つくば学園ロータリークラブの村上義孝と申します。笠倉ガバナー年度も引き続き、皆さまからのご期待に沿えるように精一杯、努力してまいります。

まず、私たち国際奉仕委員会が担当します7月開催の「奉仕プロジェクト研究会」については、笠倉ガバナーが地区行動目標の一つに掲げている「パートナーシップの推進－地域社会との連携による活動の活性化」を目指し、私たちの住み暮らす地域について改めて学ぶとともに各クラブの職業・社会・国際奉仕の現状や課題について議論する機会といたします。

また現在、提唱クラブを募集中の当地区独自の国際奉仕活動事業・世界社会奉仕　（World Community Service＝WCS）事業である「この指とまれ」事業の推進についても、多くの提唱クラブが参加できるように、また、それぞれの活動に多くの賛助クラブの協賛が集まるように地区委員会としても支援してまいります。

そして、昨年度から日本のロータリークラブとして初めて発足したウクライナ支援のための国際共同委員会（Intercountry Committee＝ICC）の担当委員会としても、国内の加盟14地区の一員として活動を進めてまいります。

この他、海外の友好クラブとの交流拡大にも取り組んでまいります。友好地区の協定を結んでいるフィリピン・タイ・ネパールの3ヶ国に加え、昨年12月からスマトラ島ランプン州での農業開発プロジェクトを行うためのグローバル補助金事業のための連携協力を進めているRID3410（インドネシア共和国の西半分）とも、交流を進めてまいります。元米山奨学生で４人目、東南アジア初のガバナーとなるラスマナ・センダリウスガバナー（ジャカルタ・メンテンＲＣ）の活動を、日本のロータリアンとして支援していきましょう。

委員会の方針と展望

青少年奉仕委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
青少年奉仕総括委員長　**宇留野　秀　一**（水戸南RC）

本年度、青少年奉仕総括委員長を拝命するにあたり、青少年奉仕が地区全体にとってより身近で、より多くのロータリアンに関わっていただける活動となることを目指してまいります。

青少年奉仕には、インターアクト、RYLA、青少年交換など、それぞれに特色ある事業があります。これらは青少年の成長に大きく寄与する一方で、実際に関わるロータリアンは限られているのが現状です。しかし、青少年が活動を通じて得た学びや成長は、その場だけに留めるものではなく、地区全体で共有する価値のある財産だと考えています。

そのため今年度は、青少年とロータリアンが直接対話する機会を積極的に創出したいと考えています。そのため、青少年交換、インターアクト、RYLAそれぞれの行事で、参加する青少年とロータリアンとが意見を交わす機会を多く持てるようにしていきたいと思います。青少年が社会人の経験や価値観に触れることはもちろん、ロータリアンにとっても青少年の率直な考えや行動力から新たな気づきを得る機会となるはずです。

また、この対話は青少年奉仕だけに留まらず、職業奉仕や国際奉仕との接点にもつながるものと考えています。職業人としての経験や国際交流の体験を青少年へ伝えることは、ロータリーだからこそ実現できる学びの場です。そして、青少年の視点をロータリアンが受け止めることで、新たな奉仕活動や地域課題への取り組みが生まれることも期待しています。

青少年奉仕は、未来への投資であると同時に、ロータリー自身が学び、成長する機会でもあります。今年度は「青少年を育てる」という一方向の活動ではなく、「青少年とロータリアンが共に学び、共に成長する」青少年奉仕を目指してまいります。地区の皆様には、ぜひ一人でも多くの青少年と出会い、その声に耳を傾けていただきたいと思います。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

CREATE LASTING IMPACT

委員会の方針と展望

ローターアクト委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
ローターアクト総括委員長　**楠　　英　夫**（土浦南RC）

本年度は、坂東ローターアクト代表を中心に、地区内各クラブとの連携をさらに深め、地区全体の活動をより活性化させることを目標に取り組んでまいります。その一環として坂東ローターアクト代表より提案された委員会の設置です。これによりクラブ間の情報共有や協力体制を強化できると思います。一つのクラブだけでは実現が難しい内容にも、地区全体で力を合わせて取り組める環境を築くことにより、それぞれのクラブが持つ特色や経験を共有し、互いに支え合うことで、より充実した奉仕活動や交流事業が実現できるものと確信しております。

ローターアクトクラブは、社会奉仕や国際奉仕を実践する団体であると同時に、学生や若手社会人が世代や職業、学校の枠を越えて集い、交流を通じて互いに学び合い、自己を高めることのできる組織です。多様な価値観に触れ、仲間と切磋琢磨しながら活動する経験は、人間的な成長だけでなく、将来地域社会や職業界を担うリーダーとして必要な資質を育む貴重な機会となります。

また、ローターアクトは単なるボランティア活動の場ではありません。「奉仕を通じて自己を磨く」というロータリーの理念を実践する場であり、地域や社会の課題に目を向け、自ら考え、仲間と協力して行動することを通じて、一人ひとりが成長していくことに大きな意義があります。奉仕と自己成長は決して別々のものではなく、地域に貢献する活動そのものが、自らを磨き、視野を広げる機会となり、その積み重ねがクラブ全体の活力にもつながるものと考えております。

さらに、クラブの未来を考える上で欠かせないのが会員増強です。新たな仲間を迎えることは人数を増やすことだけが目的ではなく、多様な価値観や新しい発想を取り入れ、クラブの可能性を広げることにつながります。そのためには、奉仕活動だけでなく、会員同士が交流を深め、参加することに喜びや成長を実感できる魅力あるクラブづくりが重要であると考えております。

本年度は、「会員増強」「交流」「自己成長」「社会奉仕」の四つを活動の柱として、一人ひとりの会員が主役となり、仲間との絆を深めながら、学びと奉仕を両立できるクラブ運営を目指してまいります。そして、地区内クラブとの連携をさらに強化し、互いに支え合い、高め合えるネットワークを築くことで、ローターアクトの魅力と可能性をより多くの方々へ発信し、未来へつながる持続可能な組織づくりに努めてまいります。会員一人ひとりが奉仕の喜びと自己成長を実感できる一年となるよう、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

委員会の方針と展望

ロータリー財団委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
ロータリー財団担当カウンセラー
兼総括委員長 **大　野　治　夫**（つくば学園RC）

2026－27年度、笠倉ガバナーのもとロータリー財団委員会総括委員長を継続で就任しました。よろしくお願いいたします。

オラインカ・ハキーム・ババロラRI会長メッセージは、「持続可能なインパクトを生み出そう」としました。そして、自分を変えられればクラブと地区を変えられます。地区を変えられれば地域社会を変えられます。と言っております。

そして、笠倉ガバナーは地区スローガンを「エンジョイロータリー！！！ そしてスマートに…」としました。

方針ですが、笠倉ガバナーの地区数値目標のロータリー財団寄付は以下の通りです。

・年次基金：１人150ドル以上
・ポリオプラス基金：１人30ドル以上
・恒久基金（ベネファクター）：各クラブ１名以上
・ポリオ・プラス・ソサエティ（PPS）：現PPS会員数＋各クラブ１名以上
・ポール・ハリス・ソサエティ（PHS）：地区100名以上を維持

そして、地区補助金を使った事業、グローバル補助金の利用、ロータリーカードの推進、出前卓話の依頼などにもアドバイスをして達成するように財団委員会全員で取り組んでまいります。

最後に、10月24日（土）筑西の地において財団とローターアクトが中心となり、ポリオイベントが行われます。成功に導きたいと思っております。全クラブが、クラブ優秀賞の受賞を望んでおります。

委員会の方針と展望

米山記念奨学会委員会

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
米山記念奨学会総括委員長 **岩　田　光　造**（水戸東RC）

皆様、こんにちは。

このたび、2026-2027年度2820地区米山記念奨学委員会委員長を拝命いたしました岩田光造です。歴代委員長をはじめ、多くの先輩方が築き上げてこられた米山事業を引き継ぐこととなり、大変光栄に思うとともに、その責任の重さを感じております。

私たち2820地区は、茨城県を中心に、研究学園都市であるつくば市をはじめ、多くの大学や研究機関が集まり、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際色豊かな地区です。その一方で、県北から県南まで広い地域のクラブが、それぞれの特色を生かしながら、温かく奨学生を支えていることも2820地区の大きな魅力です。

米山奨学事業は、奨学金を支給することが目的ではありません。ロータリアンと奨学生が出会い、互いに学び、友情を育み、その絆が将来、日本と世界を結ぶ「平和の架け橋」となることこそ、この事業の真の価値だと考えています。

そして忘れてはならないのが、米山学友の存在です。2820地区でも、多くの学友が国内外で研究者、教育者、企業人として活躍し、ロータリーとのつながりを大切にしながら後輩奨学生を支えています。奨学生、学友、ロータリアンが世代を超えてつながることこそ、米山事業の大きな財産であり、未来へ受け継ぐべき力だと思います。

今年度は、各クラブ、カウンセラー、そして学友会との連携をさらに深め、「地区全体で奨学生を育てる」という意識を大切にしながら、2820地区らしい温かい米山活動を推進してまいります。
私たちが育てるのは奨学生ではなく、未来の親日家であり、世界の友人です。その思いを委員の皆様と共有しながら、一年間活動してまいります。

皆様のお力添えをいただきながら、実り多い一年にしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

新しい分区編成について

当地区の会員減少とクラブ数の減少により、分区の会員数とクラブ数の均等化を図るため分区の編成を見直すことになりました。分区ごとの会員数のバランス、地理的要素、分区の運営状況、ガバナー選出の公平性を総合的に判断し、新しい分区編成が決定されましたのでご報告いたします。

なお、新しい分区編成は、2027-28年度より適用されますので、2027-28年度のガバナー補佐は新しい分区編成によって選出されることになります。

2025-26年度ガバナー　瀬戸　隆海

現状分区

第１分区							
日　立	日立南	高　萩	北茨城	日立港	日立北	日立中央	合　計
64	34	31	26	33	35	20	243

第２分区							
那珂湊	常陸太田	大　子	大　洗	勝　田	東海那珂	ひたちなか	合　計
16	37	24	12	25	35	23	172

第３分区							
水　戸	笠　間	水戸西	水戸南	友　部	水戸東	水戸さくら	水戸好文
123	19	69	77	20	63	17	17
茨城ロータリー E	合　計						
10	415						

第４分区					
古　河	境	岩　井	古河東	古河中央	合　計
50	37	9	45	49	190

第５分区						
下　館	結　城	真　壁	下　妻	しもだて紫水	筑西きぬ	合　計
23	24	11	64	51	14	187

第６分区						
石　岡	土　浦	土浦南	つくば学園	石岡87	土浦中央	つくばシティ
16	44	87	108	24	11	54
阿　見	つくばサンライズ	合　計				
24	19	387				

第７分区						
竜ヶ崎	水海道	取　手	牛　久	守　谷	龍ケ崎中央	合　計
35	48	14	38	3	14	152

第８分区					
鉾　田	鹿島臨海	玉　造	波　崎	鹿島中央	合　計
27	40	7	15	21	110

新分区（2027年7月より適用）

第１分区（変更なし）							
日　立	日立南	高　萩	北茨城	日立港	日立北	日立中央	合　計
64	34	31	25	32	35	20	241

第２分区（変更なし）						
那珂湊大洗	常陸太田	大　子	勝　田	東海那珂	ひたちなか	合　計
29	37	24	24	32	23	169

第３分区（変更なし）						
水　戸	笠　間	水戸西	水戸南	友　部	水戸東	水戸好文
123	19	69	75	20	63	17
茨城ロータリー E	合　計					
10	396					

第４分区（変更なし）					
古　河	境	岩　井	古河東	古河中央	合　計
50	39	9	45	47	190

第５分区						
下　館	結　城	下　妻	しもだて紫水	筑西きぬ	水海道	
23	23	64	49	14	48	
合　計						
221						

第６分区（変更なし）						
石　岡	土　浦	土浦南	つくば学園	石岡87	土浦中央	つくばシティ
16	46	86	105	25	11	54
阿　見	つくばサンライズ	合　計				
23	17	383				

第７分区						
鉾　田	鹿島臨海	玉　造	波　崎	鹿島中央	竜ヶ崎	牛　久
27	40	9	15	19	35	38
龍ケ崎中央	取　手	合　計				
12	14	209				

新分区・ブロック

分　区	第１分区	第２分区	第３分区	第４分区	第５分区	第６分区	第７分区
クラブ数	7	6	8	5	6	9	9
分区人数	241	169	396	190	221	383	209
ブロック人数	410		396	411		592	
ブロック名	1		2	3		4	

国際大会茨城ナイト報告

国際ロータリー第2820地区
2026-2027年度
茨城ナイト実行委員長　**百目鬼　芳　子**（しもだて紫水RC）

６月14日日曜日、台湾での国際大会の後 ヒルトン台北ホテルに於いて茨城ナイトが開催されました。当日は大会の後にも拘らず、各クラブのロータリアンは基より多くの海外（ウクライナ・タイ・インドネシア・ネパール）の皆様、総勢120名の方々にご出席頂きました。

台湾の地で各クラブの皆様がクラブの垣根を越えロータリーの理念や今後の活動について語り合い、親睦を深めながら有意義な時間を過す事が出来たと思います。

中でもアトラクションである、各クラブの皆様に関する「ご当地クイズ」や「瀬戸ガバナーとジャンケンポン」は、海外の方々やクラブのお子様たちも交えて大いに台湾の夜を盛り上げました。

ナイト終了後120名の方々による「手に手つないで」の大合唱は、台湾の地に一輪の大きな花が咲いたようでした。指揮を執った私にとって感激深い思い出となりました。

最後になりますが茨城ナイトを開催するにあたり多くのクラブの皆様方にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。併せてご報告とさせていただきます。

Rotary
District2820

国際ロータリー第2820地区
2026-2027

CREATE LASTING IMPACT
Rotary

地区大会

エンジョイ ロータリー!!!
そしてスマートに・・・

2026年
11月29日(日)

第1回 会長・幹事会
9:00～11:00
会場 つくば市ノバホール

本 会 議
13:00～15:30
会場 つくば市ノバホール

大懇親会
17:00～
会場 ホテル日航つくば

記念講演

11月29日(日)
15:30～16:30

2028ロサンゼルスオリンピック
サッカー日本代表監督

大岩 剛 氏
OIWA GO

ホストクラブ しもだて紫水ロータリークラブ

8月スケジュール

1	土		12	水		23	日	米山記念奨学会研究会
2	日		13	木		24	月	
3	月	岩井RC	14	金		25	火	
4	火	北茨城RC	15	土		26	水	古河中央RC
5	水		16	日		27	木	つくば学園RC
6	木	阿見RC	17	月		28	金	水戸南
7	金	龍ケ崎中央RC	18	火		29	土	
8	土	第１回危機管理委員会	19	水	下館RC	30	日	
9	日		20	木	波崎RC	31	月	
10	月		21	金	インターアクト年次大会			
11	火		22	土				

ガバナー事務所　夏季休暇のお知らせ

2026年８月12日（水）～2026年８月17日（月）まで事務所をお休みいたします。その間にいただきましたメールやＦＡＸへは、８月18日以降、順次ご返信をいたします。よろしくお願いいたします。

新会員紹介

つくばシティRC
田林　　剛
■入 会 日
2026年７月２日
■職業分類
外構エクステリア設計管理

玉造RC
岡部　善隆
■入 会 日
2026年７月２日
■職業分類
僧　侶

北茨城RC
菅生　勝則
■入 会 日
2026年７月２日
■職業分類
設備・機器業

お詫びと訂正

月信７月号　P13「⑪　国際大会への参加」、P17「ひたちなかＲＣ」掲載に誤りがございました。

（誤）ドバイで開催　　（誤）会長　大谷　啓祐
（正）**バルセロナ**で開催　　（正）**幹事**　大谷　啓祐　　お詫びして訂正いたします。

編集後記　８月号編集後記

いよいよ笠倉ガバナーの公式訪問が始まりました。随行員の私たちにも多大な歓迎をいただき、とても感謝しております。スタッフのほとんどが地区役員や他クラブへのメーキャップ経験も少ないので、皆さんのクラブのカラーが新たな出会いや発見を生み出します。

また皆さんのクラブの会長・幹事にとってのガバナー公式訪問は重大な出来事です。みんなで誘い合って、会長幹事を盛り上げていきましょう。